

平和な世界を作るために

読谷小学校 五年三組 上原 丈二

僕は、戦争が起るて人があかしくなるの
で絶対にやめてほしいけない繰り返してはいけ
ない事だと思いました。

戦争で沖繩の人達は約20万人ともなりました。
その内一船市民は、9万人以上もふま
えられました。米軍の沖繩上陸が迫る中、日
本軍は兵力を補うために沖繩の14〜19歳まで
の生徒を集めて一学徒隊をつくりました。戦間や

兵士の看護に参加させたのです。約半九〇
〇人の生徒が動員され、男子生徒は鉄血勤皇
隊や通信隊として物資を運んだり、切断した
た電話線を直したりする任務につきました。
女子生徒は病院場に配属されて負傷兵の看護
を手伝いました。ぼくは、なせ沖繩戦が起こ
ったのか疑問に思ったので調べてみることに
しました。一九三七一年七月に中国で起きた発
砲事件がきっかけとなり、日本と中国の戦争
が始まりました。戦争が長引き行を詰まらせた事態

を変えようとした日本はフランス領に進駐し
 た。その結果、日本の経済活動を封じ込めよ
 うとしたアメリカなど欧米諸国と対立を深め
 た。一九四一年十二月八日、日本軍がマレー半
 島に上陸し、ハワイ人の真珠湾に泊まっていた米
 軍を襲撃したことで太平洋戦争が始まった。そ
 うです。あと一つ疑問に思ったことか、あり
 ます。それは、戦争中何を食べていたのかと
 いうことです。調べてみると戦争中、みかん
 の皮、とうもろこしの芯、キチン、カツの芯、か
 ぼち、すいかの種、木の粉末、土など、いな
 こ、バナナ、おずみを食べていたそうです。
 今では、考えられない食事です。そのままで
 は、食べられないのでいろいろ工夫をしてい
 たそうです。みかんの皮は、干してから炊く
 てすりつぶし、ふりかけの材料やパン、すい
 とん等の中に入れます。とうもろこしの芯は、
 薄く切ってから水煮し煮出汁にすると砂糖の
 代用になる。キチン、カツの芯は、横に細くま
 み煮物、油炒め、塩もみ、塩漬け、御に混ぜ

る等。かぼちやすいかの種は、干してから
 いて堅い皮を取り落花生などの代用品。木の
 粉末は、小麦粉・米粉などに20%混ぜる。さ
 な玉は、そのまま佃煮して、粉類に混ぜ団子
 とする。いなご・バッタは、羽を取り熱湯に
 入れて足を取り除く。ねずみは、骨を取除い
 てよく消毒をしたさうです。戦争中は、生か
 るために工夫しているもの物を食べていたこ
 とが分かりました。

ぼくは今、平和に暮らせています。でも、
 ロシアとウクライナは今も戦争中です。ご飯
 を食べて来ていること。寝ていること。学
 校に行っていること。これは、とても幸せな
 ことだと思います。戦争は絶対に、ゆては
 いけないことだとす。戦争をした後には、悲しみ
 が残るだけですよ。命の大切さを知り、一日を
 一生懸命に生きることを大切に思いました。